

ぶぎん地域経済研究所

■インタビュー

ライフパートナーとして常に企業に寄添う 伴走者であり続けたい

中央税務会計事務所

Research

■新連載

部下育成にもっと自信がつく12カ月

株式会社オフィスあん 代表取締役 松下 直子氏



■彩の国 企業探訪

株式会社 大 忠

Seminar



Consulting





中央税務会計事務所

ライフパートナーとして常に企業に寄添う伴走者であり続けたい

—地域に根ざして40年、あらゆる相談に誠意をもってお応えする「よろず相談所」—

「相手の立場になって考えよ」「誠意をもって対処すべし」「創意工夫し、効率を上げよ」…9つの事務所心得を掲げる中央税務会計事務所。着実に地盤を固めて信頼を築き上げた先代からバトンを引き継いだ若きリーダーの2代目由雅氏は、先代が目標とした「どのような相談にも応える“よろず相談所”であり続ける」という遺志も引き継いだ。また、顧客への対応はもちろん、所内スタッフにも親身に寄添う。「70歳まで安心して働ける職場環境づくり」を謳う当社では、スタッフとのコミュニケーションも重視している。新体制から約1年、経営者、税理士としてはもちろん、セミナー講師としても活躍し全国を飛び回る中島由雅所長にお話を伺った。



中央税務会計事務所 所長 なかじま よしまさ
—税理士・行政書士・CFP— **中島 由雅氏**

LEADER'S PROFILE

1974年（昭和49）、10月、埼玉県与野市（当時）出身。横浜国立大学大学院国際社会科学研究科修了。横浜総合事務所監査部に入所し、実務経験を積んだ後、2007年に中央税務会計事務所に入所。所長補佐として事務所のマネジメント、営業などに奔走する。2017年5月、実父より事業承継し、現在に至る。金融機関や教育機関、商工会議所、企業など、全国でセミナー講師としても活躍中。また、2018年1月に、「部下に“任せる・依頼する”組織マネジメント」を行う「西郷どん流リーダーシップ」に取り組む組織として、NHKの番組で紹介される。著書も多数。

4畳半のスペースから 80名を抱える会計事務所に成長

—現在は大勢のスタッフを抱える御所ですが、創業当初はご自宅の一角で2名からのスタートと伺っています。

創業は1979年（昭和54）になります。先代の創業者の父は、'78年に税理士登録をして、1年後の'79年4月に当時の与野市下落合で事務所を開設しますが、玄関先を改造してソファと机を置いただけのシンプルな事務所で、その奥はすぐに居住スペースでした。

父は山梨県出身で、大学進学で上京したのですが、地盤もなく、経済的な余裕もない中でのスタートでしたので、まさにゼロから裸

一貫からのスタートだったそうです。

その2年半後に与野市中里へ移転します。中里はスペースは12畳と広くなりましたが、自宅と兼用していました。その後は、顧客と従業員が増えるに伴い移転を重ねて、2006年にさいたま市大戸にある220坪の敷地に今の事務所を建設しました。この事務所に移ってから約12年が経ちます。

—先生は、創業当時は小学校入学前くらいですが、当時の記憶や思い出はございますか？

年に1度、誕生日に家族でファミリーレストランで食事をしたことを覚えています。当時は、「食事は食べられればよし、服も着られればよし、住まいも寝られればよし」という非常に質素な生活でしたので、年に1度の

裸一貫から磐石な礎を築きあげた実父・創業者 中島智氏

2017年5月に突然倒れ、72歳という若さで帰らぬ人となった創業者の中島智氏。翌月開かれたお別れの会には、上田県知事はじめ、1,000名を超える多くの人々が最後の挨拶に訪れた。経営者としてだけでなく、地域貢献にも尽力をつくし、多くの功績を残してきた故人を偲び、お別れの会は感謝の言葉で埋めつくされた。

事務所一丸となり、本来の税務や会計の業務以外にも、多くの相談事も気軽に話せるビジネスパートナー「よろず相談所」になることを目標にしていた中島智氏。遺志を引き継いだ息子で2代目の由雅所長は、全スタッフを前に「温故知新の精神」で邁進すると宣言。受け継いだものを確実に継承しつつ、新しいものを取り入れながら「よろず相談所」として成長することを誓った。

中島智氏の主な役職 (2017年5月)

- | | |
|---------------------|-------------------|
| ■さいたま商工会議所
副会頭 | ■埼玉県警察学校友の会
会長 |
| ■埼玉経済同友会
常任幹事 | ■埼玉県警察官友の会
副会長 |
| ■関東信越税理士会浦和支部
理事 | |
| ■埼玉県行政書士会
監事 | |

先代は「創意工夫の人」。所内は先代の事務効率を考えた創意工夫が随所にみられる。写真は事務効率・利便性を考えたベストと手製の収納棚。



仕事には常に真摯な姿勢で臨み、厳しい一面もあったが、その人柄は温かく、いつも笑顔の人であった。



先代の写真と先代が残した事務所心得が置かれた2代目・由雅氏の机。

外食は楽しく、今でも鮮明に覚えています。

父は事務所開設のために、外食などの贅沢はせず、質素な生活で家計をやり繰りして開業資金を貯めたそうです。やっとの思いで100万円を貯めて銀行で当座預金口座の開設を申請しても断られ、その悔しい思いが会社を成長させる原動力にもなったと聞いています。

— 幼い頃から先代の背中を見て育ててこられた中で、印象的なエピソードなどはございますか？

父は工夫することが好きでしたね。「発明」といっては大げさですが、機能性や利便性を備えた日常生活品を次々と製作していました。

私がスーツの下に着用しているベストも父のアイデアで、文房具や電卓、手帳など仕事で使う小物がほとんど入るんですよ。釣りが趣味でしたので、釣用のベストをヒントに考案したのでしょうか、大変便利で今も愛用しています。また、業務の効率のために製作した事務所内の棚やサイドワゴンも初代品は父

の手作りです。とにかくマメで、決めたらすぐに行動していましたね。

また、帳簿整理のマニュアルなどをビデオカメラで撮影・編集して、ビデオテープに収めたマニュアルビデオを、顧客に配付したり、従業員の指導に利用していました。当時としては珍しく、画期的なことですよ。また、子どもの頃の事務所の印象として覚えているのは、オフコンが打ち出すパンチカードの音などの機械音が常に聞こえていたように思います。こうした設備投資は積極的に行っていたようですね。

設備投資といえば、父は常日頃、「お客様のよろず相談所であれ」と言っていたので、客先への移動手段であるバイクは人数分、車は2人に1台という割合で揃えていました。今も初めて事務所にお越しになる方はその数に驚かれる方も多いのですが、電車での移動は時間もかかりますし、すぐに駆け付けるには機動性の高いバイクや車は必需品なのです。

中央税務会計事務所の強みと特徴

税務署のOBが8人在籍

税務署長等を歴任したOB等、在籍するエキスパート税理士が難しい税務相談や税務調査の際に納税者の代理として立ち合い、交渉します。

コミュニケーション重視

平均在職年数が10年超！経験豊かなスタッフが手間を惜しまず、直接訪問して帳簿指導や経営相談をお受けします。



圧倒的な勉強量

毎朝30分の勉強会、税務調査事例研究、外部研修等、年間150時間以上の教育を実施。

金融機関のOB在籍

金融機関数行と提携。事業計画作成のサポートも可能！

外部専門家と幅広く連携

弁護士、司法書士、社会保険労務士、弁理士、行政書士、等士業や全国的に活躍中のコンサルタントと提携、幅広く経営者をサポートします。

絶えず父の背中を見て育ち、 憧れと尊敬を胸に税理士の道へ

—— 経営者としての厳しい面が印象に残る父上ですが、家庭内での父親としての印象はいかがですか？

幼少の頃の父との写真は数枚程度で、父と遊んだ記憶はほとんどないのです。平日はもちろん、週末も仕事で、私が起きているうちに帰宅することは滅多になかったですね。ただ、教育には非常に熱心でした。勉強に関しては日々怒られていて、「人生は戦いだ」と言われ続けていました。

私は2代目として父の跡を継いでいますが、跡を継げと言われたことは1度もないのです。事務所は順風満帆で成長を続けたわけではなく、バブル崩壊の頃はかなり厳しく、家を手放して事務所の2階で生活していた時期もあったのですが、父が家で仕事の不安や

不満、愚痴をこぼしたことは一度も記憶にありません。そういう父の背中を見て育ってきたので、父に対する憧れや尊敬は常に抱いていましたから、同じ道を進むことはごく自然なことだったのかもしれませんがね。

笑い話ですが、顧問先のパン屋さんからいただいた菓子パンを「税理士はパンをもらえるんだぞ、税理士はいいぞ」と言いながら私に渡すのですが、質素な生活を続けていた子どもの私にとって、こんなおいしいパンをもらえる税理士は凄いんだ！というイメージが出来上がっていたのですが、これは父の策略だったのかもしれませんがね。

—— 先生は2008年に入所されますが、大学卒業後は色々ご苦労をされたようですが、入所までの経緯をお聞かせください。

大学卒業と同時に入所したら外での経験は得られませんので、父も私も外で修業を積んでからという考えでしたし、父の力を借りるのに抵抗もありましたから就職活動を行いました。しかし、どの会計事務所の面接でも、必ず辞めるという2代目という立場から、就職活動は上手くいきませんでした。

何とか実務経験をつけようと、当時住んでいた横浜のタウンページの掲載連絡先に片端から電話を入れました。ア行から始まり、ナ行に差し掛かったところで、ある税理士事務所にアルバイトで採用してもらえたのです。

アルバイトながら何とか「実務経験」を積むことができたので、次は普通に就職活動を行い、'03年に横浜総合事務所の監査部に就職が決まりました。横浜総合事務所の仕事は非常にハードでしたが、代表の泉敬介先

生からは多くのことを学ばせていただきました。泉先生は私にとっては第2の父と呼べるほど現在も大きな存在です。お客様は多くの悩みを抱えており、私たちが担当する税務や会計は重要なキーパーツではあるが、それで全て解決できるわけではない。経営計画や経営理念、引いてはその人のライフプランなどを総合的に解決するのが我々の仕事であると教わりました。これは父の「お客様にとって、よろず相談所であれ」という教えと同じですね。

今振り返っても、私の20代は自問自答の繰り返しでした。大学卒業後は大学院や専門学校で学んだりしましたが、社会人となった大学の同級生と会う度、会社の愚痴や悩みを聞いていると、自分だけが孤立し、社会に貢献できていないという焦燥感がかなりありました。父の存在も大きく、父に対してもそうでしたが、社会人となった同級生に対しても大きく水をあけられたという劣等感がありましたね。

今は事業承継支援や相続などの相談を受けることが多いのですが、上場企業の下請け会社で苦勞されている経営者や後継者の方とお話をしていると、私が20代の頃に感じていた焦燥感や葛藤したことと重なる部分が多く、共感できる部分が多々あり、少しでも力になりたいと心から思うのです。そういう意味では、20代の経験は決して無駄ではなかったと思います。

「いい仕事」をして、 お客様もスタッフも安心して幸せに

— 横浜の会計事務所に5年勤務されてから、現在の事務所に入所されるわけですが、父上とは約10年机を並べて働かれたのですね。

事務所に入所する際は「一生後ろ指をさされて生きて行こう」と決意して入社しました。父は創業者として礎を築き、地域活動にも貢献していましたし、多くのスタッフを育て磐石な事務所を築き上げてきたのですが、その中に血の繋がりがだけで後継者としてポンと入

ることに申し訳なさを感じていたのです。頑張ってきた社員からしたら理不尽そのものじゃないですか。恵まれた環境や機会をいただき、檯舞台に立たせてもらったことは本当に有難いことで、父や社員の皆には感謝がありません。

— 御所の事業案内やホームページには、「お客様の夢の実現を応援する会計クリニック」とありますが、会社の取組みや特色などをお聞かせください。

私は、事務所はネットワーク機器の「ハブ」みたいな存在、広い意味で皆様のお役に立てる存在でありたいと思っています。先代は常日頃、「いい仕事をしなさい」と言っていました。「いい仕事」を言い換えると、「プロとしての仕事」だと思うのですが、そのために所内で取組んでいるのが税務署や金融機関や社会保険支払基金等、専門家のOB人材の起用と、毎朝行う30分の勉強会です。勉強会のテーマは、専門的なものから時事的なものまで実にさまざまで、時にはロールプレイングも行ったりします。その中でお客様に必要なものはペーパーにまとめてお配りしています。

また、所外の取組としては、税務・会計だけでなく、お客様のニーズに応えるために、社労士や行政書士、弁護士、金融機関などあらゆるネットワークを駆使して「いい仕事」のために取り組んでいます。

弊所は、約650社のお客様とお付き合いがあります。スタッフ1人あたり30～40社の専任担当制ですが、各人にパートの方やOBの方がついて相談にあたっています。先代はいつも「70歳まで安心して働ける職場にしたい」と言っていました。現在は約80名のスタッフがいますが、この規模には意味があって、もし担当者が病気や事故などで急に休むことになった場合、数社を分担すると、各人の負担も少なく、お客様にも迷惑をかけない、そして当人も安心して静養できるのです。

実際、事故や介護などで長期休暇を余儀な

中央税務会計事務所



新春恒例のスタッフの集合写真。2代目は「スタッフ全員が宝」と語る。

くされたケースがありましたが、翌日には新たなシフトが生まれ、支障なく業務にあたっています。そしていつでも戻れる体制も整っていますので、安心して復職できるのです。

100年続く企業を応援するために、 100年続く会計事務所へ

— 入所されて10年、そして代表に就任されてまもなく1年を迎えます。多忙な毎日をご過ごされてきたと思いますが、先生の理念や展望などお聞かせいただけますか。

100年企業を応援したいと思っています。同時に弊所も100年企業を目指します。100年企業といっても、老舗の企業を応援することではなく、「ゴーイング・コンサーン」という前提に立てば、生まれたての会社も永続企業の仲間入りをしたわけです。こうした小さな企業を応援して行きたいのです。

先代が急逝して2日後にスタッフ全員の前で、今まで築いてきた人とのご縁など、守るべきものは守りつつ、新しいものにチャレンジしていく「温故知新の精神で邁進する」と宣言しました。そして3つの約束をしまし

た。前述しましたが、1つ目は、よろず相談所として「いい仕事をする」こと。2つ目は、安心して70歳まで働ける「いい事務所を目指す」こと。そして、3つ目は100年企業を目指す「いい経営者になる」ことです。

先代と私は親子二人三脚で事業承継を支援してきましたので、これからも柱の1つとして続けて行きたいですね。これは税理士としても2代目経営者としても、私だからこそ語れることがありますから、課された使命と思い、お役立ちしたいです。

また、新たな取組として、一昨年に中小企業がスポットライトを浴びるような映像会社を設立しました。会社設立の根底には、2代目としての想いがあります。父の跡を継ぎ、経営者となり、事務所を牽引できているのは、ずっと父の背中を見て育ったからです。有難いことに私は父の働く姿をすぐ傍で見て育ったわけですが、多くの方は、自分の親がどんな仕事をしているのかわかる人は少ない。朝出かけて、夜戻って来る、その姿しか見ることがなく、会社でどんな仕事をしているか把握している人は少ないと思うのです。

経営者ならスポットライトを浴びることもあるかもしれませんが、頑張っている従業員の方がクローズアップされることは滅多にありません。最初は所内のスタッフの姿を追い、いずれは外部のお客様にスポットを当てて、ビジネスにも展開できると思っています。

映像会社の設立には、もう1つの目的があり、相続の際の遺言書を補完する映像作品を作りたいという思いがあります。合法的な遺言書があっても家族間で争いが生じることは少なくないのです。そういった場面に何度も立ち会ってきましたが、そこにビデオレターのような故人からのメッセージがあれば、争いが避けられるのではないかと思うのです。現状では法的手段にはなりません。決して無意味なものではないと思うのです。

—最後にスタッフの皆さんへのメッセージをお願いします。

スタッフの皆には感謝の気持ちしかありません。入所当時は、2代目として頑張らなければと、がむしゃらに営業活動をしていた時期があったのですが、その裏には「結果を出して認めてもらいたい」という強い気持ちがありました。成果もそれなりに上がったのですが、所内の求心力は高まらず、父とも何度も衝突しました。その原因はコミュニケーション不足にあったように思います。

事業承継の際に、知人の吉田幸弘氏が出版した「西郷どん流リーダーシップ」に出会い、多くのことに気付かされました。所内には有

わかりやすいセミナーや書籍も大好評

中島所長は10年ほど前からセミナー活動も積極的に行っている。講演依頼は小学校から大学、金融機関、商工会議所、各種企業などさまざま。内容も専門の税金・会計関係から経営全般、自己紹介術など多岐にわたる。

過去にはセミナーコンテスト東京大会で優勝経験（全国大会4位）もあり、現在も多忙な業務の合間に全国で年間30～40本も依頼をこなしている。



書籍やパンフレットもわかりやすく好評だ。

能なスタッフが大勢いますので、自分一人で抱え込まずに、委ねることの大切さに気付いたのです。スタッフは宝です。今は積極的にスタッフの声に耳を傾け仕事を任せています。結果、自発性が生まれ、所内に活気が出てきたように感じます。こうした積み重ねで会社は大きく成長していくのだと思います。

中央税務会計事務所 概要



創業 1979年（昭和54）4月
 従業員 80人（税理士、事務スタッフ含）
 本社 〒338-0012
 さいたま市中央区大戸6-30-1
 ホームページ <http://www.chuotax.com>
 業務内容 会計業務／税務申告・代理／税務相談／
 経営相談／開業支援／その他
 取引店 与野支店